

ハラールという戦略上の選択肢 حلال

データで読み解く訪日ムスリム客の動向

第 39 回

今年も GMT I（グローバル・ムスリムトラベル・インデックス※1）が発表されました。ムスリムフレンドリーな旅行先をランキングするこのレポートは、世界 130 の国と地域を対象にしています。発表会は 3 年連続でインドネシアのジャカルタで開催され、今年も発表直後からその結果を巡って各国で話題となっています。

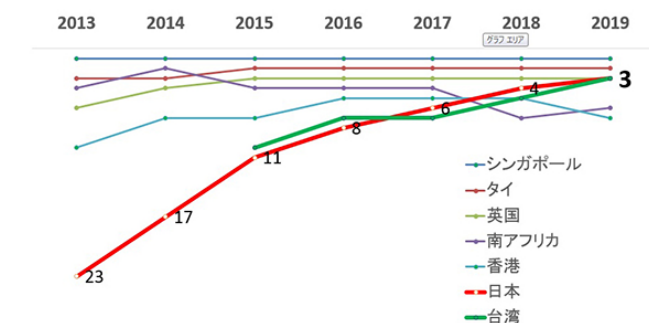
今回はランキングが大きく動いた 2019 年の GMT I について考察します。

日本が非イスラム諸国で 3 位に

下記のグラフは、イスラム協力機構（O I C）非加盟国における GMT I のランキングを示しています。これまで他に例を見ないスピードでランクアップしてきた日本は、今年もランクを一つ上げて 3 位を獲得しました。13 年は 23 位だったもので、6 年で 20 位ランクアップしたことになります。13 年にマレーシアとタイの訪日ビザを緩和したのを皮切りに、各地でムスリム客を迎える環境を整備してきたことがこの結果につながっていると言えるでしょう。

日本は今年もランクアップし英国に並んだが、台湾も躍進した結果、日本、英国、台湾が同点で 3 位となった

日本のランキング推移
(OIC 非加盟国・2013～2019 年)



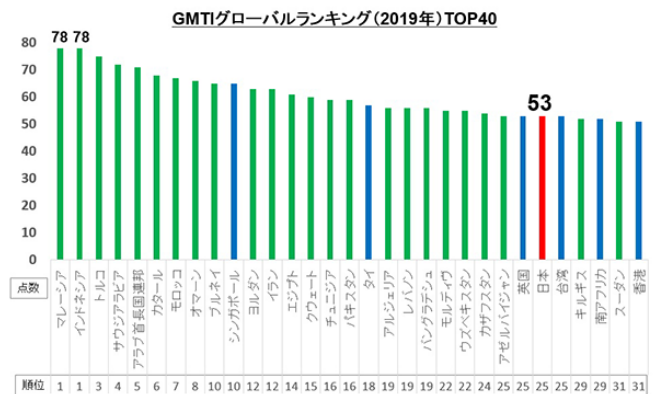
GMTI REPORT 2013-2019, Master Card CrescentRating から作成

しかしながら、他国との競争は激しさを増しています。確かに日本は O I C 非加盟国として 3 位を獲得しましたが、同点で英国と台湾が並んでいるからです。中でも台湾は、これまで日本と抜きつ抜かれつのラン

キング競争を展開してきました。政治問題が影響して激減している中国からの訪台客の代わりとして東南アジア諸国連合（A S E A N）からのムスリム客を積極的に誘致したことが背景にあります。

次のグラフの O I C 加盟国を含むグローバルランキングでは、日本が 25 位であることが確認できます。18 年も 25 位でしたので、グローバルランキングではランクアップはなかったことになります。日本の前後には英国や台湾が確認できますが、今年特筆すべきこととしては韓国の躍進が挙げられます。韓国は O I C 非加盟国ランキングで今年 8 位（18 年は 13 位）、グローバルランキングで 34 位（18 年は 41 位）にランクインしたのです。訪韓ムスリム客の誘致と韓国産ハラール食品と化粧品を積極輸出している韓国の台頭は、東アジア諸国間でのムスリム客獲得競争に拍車をかけそうです。

日本は OIC (イスラム協力機構) 諸国を含むグローバルランキングで 25 位と、昨年と同じ順位に甘んじた



資料: GMTI REPORT 2019, Master Card CrescentRating から作成

首位不動のマレーシアにインドネシアが並ぶ

今年最も大きな話題になったのは、マレーシアとインドネシアです。マレーシアは 11 年のランキング開始以来、単独首位を維持してきましたが、今年初めてインドネシアに並ばれました。同点で首位というのは過去に例がなく、GMT I 史上初の出来事です。インドネシアは観光省が 17 年に「早期にランキング首位を獲得する」と宣言してから、GMT I の評価ポイントに沿って環境整備を進めてきたのが評価されたようで

す。

その一つとして、例えばリゾート開発が挙げられます。バリ島の東に位置するロンボク島がその代表例で、同島を「インドネシアを代表するムスリムフレンドリー・リゾートにする」としています。バリ島はバリ・ヒンズー教が多数派を占めますが、ロンボク島はイスラム教が多数派です。世界有数のリゾートであるバリ島のイメージを保ちつつ、ムスリム客を誘致するのに同島は適しているのでしょう。

またインドネシアは昨年と今年2年連続で「インドネシア・ムスリムトラベル・インデックス (IMTI)」を発表しました。これはGMTIのインドネシア版で、国内10の州と地区をランキングにまとめたものです。GMTIの各国版としては17年発表の「ジャパン・ムスリムトラベル・インデックス (JMTI)」がありますが、IMTIはその2例目です。ロンボク島はこのIMTIで2年連続首位を獲得しています。

インスタントヌードル・トリップ

今年のGMTIではユニークな新語も飛び出しました。『インスタントヌードル・トリップ』がそれで、出発の直前に予定を立てる旅行を指しています。売れ残った航空券を格安で購入し、予算は抑えながらお気に入りの旅先をリピートするムスリム旅行者が増えているのです。

これは行動的なミレニアル世代(1980~2000年前後生まれ)ならではの旅のカタチですが、その裏には旅行コストの低下やビザの緩和といった環境の進展が影響しています。また会員制交流サイト(SNS)で旅

先の情報をリアルタイムで入手できることも大きな後押しとなっています。

5~6年前、ムスリムにとって日本は「未来の旅先」でした。しかし今では「すぐ行ける旅先」になりつつあります。では、さらに彼ら呼び込むために、日本はどのような対応が必要なのでしょう。来月はGMTIから垣間見える日本の次の打ち手について考えます。

※1 Master Card CreascentRating, Global Muslim Travel Index 2019

<筆者紹介>

横山真也

ヨコヤマ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
フードダイバーシティ株式会社 共同創業者
ハラール、ヴィーガン、ベジタリアン、グルテンフリーといった食の多様性対応〜フードダイバーシティへのプラットフォーム。Halal Media Japan (ウェブ)、Halal Gourmet Japan (アプリ)、Halal Expo Japan (商談会)、Tokyo Modest Fashion Show (ファッションショー)、UPSTARTS (オンラインB to B=企業間取引=商談会)といった複数ブランドの事業を展開している。今年11月には5度目の開催となる商談会をリニューアルした『多文化社会エキスポ-あしたのニッポン展-』を開催する。ビジネス・ブレイクスルー大学LA (ラーニングアドバイザー) 同大学院TA (ティーチング・アシスタント)

NNAアジアビジネスデータバンク 2019年版

現地社員給与動向、基礎統計データでビジネスを強力サポート!

好評発売中

●対象国・地域

中国、香港、台湾、韓国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、インド
※ラオス、カンボジア、ブルネイは基礎統計のみ

●グラフ・表で各データを見やすく表示

●資料作成に役立つダウンロード機能付き

CSV形式のファイルを簡単にダウンロードできます。資料作成にお役立てください。

contents

給与動向

▶ NNA独自調査による現地社員の給与、昇給率、賞与などの情報を提供

基礎統計

▶ GDP、CPIなど約100項目のマクロデータを国別、年推移で掲載
▶ 最大10年分のデータ

総回答社数

2273

社